

## 倉橋町の概要（各論 1）

### ～倉橋町の浦（行政区）～

倉橋町の住所は「呉市（合併前は安芸郡）倉橋町〇〇〇番地」であるが、かつては「倉橋町本浦」など行政区（浦）の名称が広く使われていた。

町内のこの浦（集落）について紹介したい。

#### ●本浦（ほんうら）

役場などが置かれた倉橋の中心地、「尾道千軒・倉橋千軒・宮島千軒」と言われていたように古くから造船で栄えた。

この本浦の集落には5つの地区がある。

#### ○オノ木（さいのき）

町の氏神である桂濱神社（本殿は国の重要文化財）、大神社、桂ヶ浜（国立公園）西洋式ドック（日本最初のドックともいわれている）、巨大な石切り場などがあり、現在では桂浜温泉館、長門の造船歴史館、歴史民俗資料館や、市民センター、小中学校、市民センター、体育館、温水プールなどの施設もある。



#### ○松原（まつばら）

地名から広い松林の海岸があり、造船所やそれに関係する仕事場が見られたのではないかとと思われる。かつては「尾崎村」と言われていた。

白華寺や西蓮寺、塩竈神社、樹齢数百年の棕の木（御神木）などがある。

#### ○上河内（かみごうち）

新町とも言われ、本浦中心の川（江の州川）の土砂が堆積した砂州にできた地区である。

天大将神社をはじめ寺院も多く、鍛冶ヶ奥という地名もあることから造船業に関係する人たちが多くいたようである。

#### ○小林（こばやし）

桂濱神社より歴史が古いと言われる春日神社があり船の神様とされる。かつてはこの神社までが海岸線であった。

#### ○石原（いしはら）

西部に高さ40mの立石（たていし）や明治天皇が飲料水として採水された影浦（かげうら）などがある。

●尾曾郷（おそごう）

漁業中心の小さな集落。かつては壱岐や対馬，遠く朝鮮半島まで出漁していた。現在その面影はないが過去には数棟のイワシ網漁の網屋があった。

瀬郷とも使われていた。



●須川（すがわ）

三角州上にできた集落。山から流れた土砂が堆積してできたのが地名の由来となっていると言われる。機帆船（海上輸送）に生活の手段を求め，同じ町内の釣土田とともに多くの機帆船を所有し，海運業が盛んであった。

新宮神社は歴史も古く，境内にあるウバメカシの自然林は有名である。



●西宇土（にしうど）

能美島の水軍が多賀谷水軍が攻めようとしてこの集落で追い払った話があり，西から水軍が渡って来たことから「西宇渡」→「西宇土」となったと言われる。

この地域は良質な花崗岩（御影石）が多く産出され石工が多くいたが石材の需要低下とともに衰退し機帆船中心の生活に変わった。

またこの集落出身の農家から珍しいミカンの木が見つかり，「いしじミカン」として有名になった。



●大向（おおこう）

平地がほとんどなく急な斜面に家屋がある。石材の運搬（石船）を含め，集落には石屋が多くあった。

近くに「伝太郎鼻」と言われる突端があり，伝説も残る。また石船を題材とした山田洋次監督の映画「故郷」の舞台ともなった。



● 重生（しぎょう）

住民は山口県屋代島（周防大島）から移り住んだと言われる。ここも急傾斜地であるが、石積の段々畑にして生活した。

集落の人々は信仰心が厚く遠く本浦のお寺に泊りがけで参詣した。現在多くが空き家になっている。

集落は「重生」「江ノ浦（えのうら）」「重極（じゅうごく）」などの地区がある。

重生



● 灘（なだ）

集落は「光ヶ灘（みつがせ）」「鳴滝（なるたき）」の地区がある。

石材の切り出しで、明治時代から尾道、大三島（愛媛県）、呉市広地区から移住してきた。過去には、松も多く水が豊富であったが石の切り出しの影響か減少傾向にある。

灘



● 宇和木（うわぎ）

倉橋町の中でも、大きな河川「大谷川」「大白明川（おおしらけがわ）」2本が流れる。

干拓地もあり、農業が盛んであったが、農地は近年工場や大型店舗などができている。

宇和木・本浦間に「宇和木峠」という難所があったが、トンネルの開通により、時間短縮に加え、安全な通行ができ、利便性が増した。

宇和木



● 釣士田（りょうしだ）

明治時代から海運業が盛んであった。過去の地名は「獵士田」と言われていたようだ。

以前は、遠浅（湿地帯）になっていた地域に集落の中心がある。

集落内の中央部に県道があったが交通量の増加と自動車の大型化により狭隘になり、山側にバイパスが完成した。

釣士田



● 長谷（ながたに）

平家の落人の子孫の集落と言われ、昔は「伊屋（いや）村」と称した。

三方を山に囲まれた深い谷の集落なので「長谷」という地名となったようで



ある。

過去に平家落人が住んでいたとの言い伝えは五輪塔が残っているので事実であろう。

河口に広大な遠浅があり、かつて埋立をして綿花の栽培をしていたが、今は別荘地になっている。道路事情が悪く、現在も明治時代の道が主要道路になっている。

長谷



### ●尾立（おたち）

昔は長門島（倉橋島）の中心地で地頭の役所があった。その役所を館（たち）と言っていたのが尾立となったようである。

倉橋町の田畑の3分の1を占めているといわれ、ネギ・ダイコン・枝豆・トマトの栽培が盛んな農業中心の集落である。

過去には酒や醤油の製造も行われていた。

近年、集落の北部（水越）に大規模な農業団地も造成された。

尾立



### ●室尾（むろお）

「室」という地名のつくところは、港（船で漁を行う）の意味を持ち、この集落は港町としてまた商業地であり、現在は半農半漁が中心である。

倉橋町の中でも最も人口の多い集落であり、商業が栄え、三味線も盛んであった。

頼山陽をはじめ頼一族など、江戸時代後期には著名な人たちも訪れた。

また、池ノ荘、濱ノ荘、里ノ荘などの地名から、かつては平家の領地であったと考えられる。

現在「室尾西」と「室尾東」の2地区。

室尾



### ●大迫（おおさこ）

明確ではないが、開墾者が移住したのが始まりと言われ、能美島や中島（愛媛県）からも来ていた。

「船隠（ふなかくし）」という地名からこの湾に任那の王の乗った船を隠し、新羅との戦いに備えたという伝説がある。

亀ヶ首には古代番所が置かれ和同開珎も出土している。第二次大戦中には試射場や潜航艇の訓練などの秘密基地も置かれた。

大迫



●海越（かいごし）

浅瀬の海（堀切）を渡ってきたことから地名が海越になったと言われる。船の見張り役の番所があった。

（見張り場所は、鹿老渡の遠見山）

農業（ミカン）中心の集落で、明治時代からこの集落のミカンは「**海**ミカン」として関東や関西の市場において高値で売られた。

集落の反対側には「唐船浜」と地名でこの浜で船を建造したと言われるが定かでない。



●鹿老渡（かろうと）

地名の由来は、大陸への航海で休憩に適した湾があったので韓泊まり（からとまり）といわれていた説と鹿島の老いた鹿が海を渡ってきたという説がある。

しかし、集落を形成したのは二百年あまり前で計画的に造られ道路が条理になっている。

江戸時代には、朝鮮通信使が嵐のため避難したこともあり、集落総出で歓待した記録もある。遠見山のふもとには6世紀の「岩屋古墳」が残る。



●鹿島（かしま）

半農半漁、広島県最南端の島として、気候も温暖であり、石積の段々畑が有名である。以前は「慶賀島（けいがしま）」と呼んでいたが、源氏が平家を滅ぼした帰りに、沢山の鹿を放したと言われ鹿島となった。

この島は牛馬の飼料の栽培地であったが、本浦の人口が多くなったため移住したものである。1975年（昭和50年）鹿島大橋が開通し、本島と繋がった。

集落は、鹿島上「瀬戸（せと）」、鹿島中「家之元（いえのもと）」「碕之元（はえのもと）」、鹿島下「宮ノ口（みやのくち）」と、3地区に分かれる。



（参照）倉橋町浦名一覧所在図

[https://www.city.kure.lg.jp/uploaded/life/42658\\_72756\\_misc.pdf](https://www.city.kure.lg.jp/uploaded/life/42658_72756_misc.pdf)